

その 2. 繰越金と年会費の削減意見について

繰越金が多いので年会費を下げるべきではなかったかとの質問がありました。

代表者会議でのこの質問ですが、後の懇談会のテーマとして提案するか、予算の審議の場で予算案として具体的な動議を出すかのどちらかではなかったかと思えます。

とはいえ、丁寧にお答えすべきとのご指示ですので、少し視点を変えて、懇談会の場で今の繰越金と年会費の適切性について如何に考えるか？と聞かれたとして、四年間の代表の苦役経験から私見を申し上げます。

平成 24 年度、25 年度、26 年度、27 年度、28 年度の会計報告を見ながらお話をしなければならぬと思えます。なお、24 年度前任の世話人により案がまとめられ 25 年度から 28 年度までは、私の時代に世話人により会計報告と予算案がまとめられ、代表者会議で議決承認されたものです。

24 年度から 28 年度までの会費収入の推移は

それぞれ 130,000、118,000、114,000、110,000、110,000（予算）であり、

それに対する通常経費支出は 123,040、130,980、115,284、114,725、133,000（予算）である。

年間の通常経費支出は、年間の会費収入を少々上回っているがほぼバランスがとれている。

また、計上された繰越金は、535,758、493,450、382,278、394,438、363,528（予算）であるが、目的別積み立てや寄附等による効果が 0、30,000、30,000、30,000、50,000 とあり、

それを除く実質繰越金は、535,758、463,450、352,278、364,438、313,528 と推移している。

この実質繰越金の減少傾向は、つどいの助成や勉強会の費用に使用された経費

60,000、72,163、36,632、48,355、(100,000（予算))、の影響による。

活動方針により、四年間の平均で一年間 5 万円余ほどの勉強会の費用を使用しました。

その結果として、純年会費による前年度繰越金は 24 年度の 535 千円が 28 年度予算では 313 千円と減少した。

三年分の会費収入に近い値である現在の繰越金と年会費削減の議論としては

今後、勉強会やつどいを行わない方針にすれば、現在の繰越金 313 千円は、多少の減少で推移する。その方針であれば、313 千円の処分を考え会費の削減に当てるという方法もある。

また、313 千円の前資を更に次世代の協議会の体質向上や生き方の強化のために利用するという考えもあると思う。

この先は、代表者各位の方針の決定に依存するでしょう。 以上